

# 文学資料で紐解く牧野信一

小田原市立図書館所蔵牧野信一資料を中心に

やなぎ さわ たか こ  
講師 柳沢孝子

開智国際大学教授

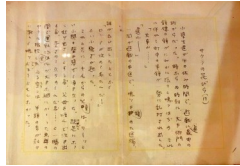


早稲田大学院文学研究科（日本文学）博士後期課程満期退学。現在、開智国際大学リベラルアーツ学部総合文化学科教授。研究領域は、大正期及び昭和初期の主として私小説。単著は『牧野信一—アイデアの獵人』（小沢書店、平成2年）、『私小説の諸相—魔のひそむ場所』（双文社出版、平成22年）、編著は『宇野浩二と牧野信一—夢と語り』（有精堂出版、昭和63年）など、主要な論文は「宇野浩二『思ひ草』論」（『日本橋学館大学紀要』7号、平成20年）、「牧野信一—足柄幻想—不安の形象化」（『国語と国文学』90巻6号、平成25年）ほか多数。



まきの しんいち  
牧野信一（明治29年 - 昭和11年）

小田原出身の小説家。旧小田原中学校を経て、早稲田大学英文学科を卒業。代表作には「爪」「父を売る子」「ゼーロン」「バラルダ物語」「鬼涙村」などがある。初期は私小説風の世界で知られ、のちに幻想小説に転じた。



自筆原稿「サクラの花びら」

ながら、牧野文学を紐解いてみましょう。  
「サクラの花びら」の自筆原稿などを使いながら、牧野文学を紐解いてみましょう。

牧野の出発点となった同人雑誌『十三人』、牧野文学の絶頂期に彼自身が主宰した雑誌『文科』とその貴重な校正刷、牧野の絶筆となる小説「サクラの花びら」の自筆原稿などを使いながら、牧野文学を紐解いてみましょう。

牧野信一は、小田原で生まれ、小田原や足柄を舞台とする独特な幻想的小説を残しました。まさに郷土の作家です。小田原市立図書館には、牧野を知るための第一級資料が、たくさん所蔵されています。

平成29年

## 3月4日（土）午後1時半～3時半

## かもめ図書館視聴覚ホール（2階）

会場アクセス：JR鴨宮駅から徒歩約10分

◎募集人員 80名（申込み先着順）

◎参加費用 無料

◎申込方法 下記申込先にメールまたは電話

◎申込先 電話：0465-24-1055（小田原市立図書館）

メール：tosho@city.odawara.kanagawa.jp



当日は公共交通機関をご利用ください。

主催：小田原市立図書館